

会 議 要 旨

| | |
|-------------------|---|
| 会議の名称 | 令和5年度第2回川越市立図書館協議会 |
| 開催日時 | 令和6年 2月16日(金) 午前10時 開会 ・ 午前11時45分 閉会 |
| 開催場所 | 中央図書館 3階 展示室 |
| 議長(委員長・会長)氏名 | (会長) 遠藤 克弥 |
| 出席者(委員)氏名 (人数) | (副会長) 盛田 隆二 吉岡 一美、内藤 俊史、若林 英雄、樫村 雅章 竹岡 優子、佐藤 由来、佐藤 葉子 (8名) |
| 欠席者(委員)氏名 (人数) | 林 志信、大澤 崇、須澤 美和子、飯田 敦、武藤 寛史、 廣川 康之 (6名) |
| 事務局職員職氏名 | 中央図書館：島崎副館長 原田副主幹 増田副主幹 間瀬主査 西図書館：駒井館長 川越駅東口図書館：谷沢館長 高階図書館：今井館長 |
| 会議次第 | 1 開会 2 会長あいさつ 3 議題・報告 (1) 中高生の図書館利用率アップについて(佐藤由来委員提案) (2) 幼児の図書館利用率アップについて(佐藤由来委員提案) (3) 図書館利用の促進について(佐藤葉子委員提案) (4) 不登校やひきこもりに悩む当事者や家族を支援していくために、図書館としてできること(佐藤葉子委員提案) (5) その他 4 閉会 |
| 配布資料 | 次第 資料1 佐藤由来委員資料 資料2 佐藤葉子委員資料 |

議 事 の 経 過

1 開会

2 会長あいさつ

3 議題・報告

(1) 中高生の図書館利用率アップについて(佐藤由来委員提案)

資料1(表面)に基づき、提案委員が説明を行った。

委員: 周囲の子育て世代や高校の生徒に聞き取りを行って具体的な提案を作成した。中高生は動画やアプリの利用が多く、実際の本を手取る機会が減っている。本の中の情報だけなら家の中で十分得られる。図書館に来てもらうためにはそれ以上の価値が必要であり、図書館に弱点のようなものがあれば改善する必要がある。中高生に聞いた図書館の弱点は主に3つで、①場所が遠い。②古いイメージがある。施設が古く、本も動かない古い情報しかない。③自分に必要な情報が得られない、である。これを克服するような改善点について提案をしたい。

①場所が遠いことについて、東口図書館以外は駅から遠く、中高生には行きづらい。このため、貸出・返却が図書館以外でできたらよい。中高生はコンビニエンスストアによく行くので学校付近だけでもコンビニエンスストアで貸出返却できたら利用が増えるのではないか。

②古いイメージについては、これを払拭するため、アナログだけでなくデジタルなものを取り入れ、最新の情報を得られる場所というイメージを作っているかどうか。よくコンビニのレジの上にあるデジタルサイネージを使えばどんどん最新の情報を載せられるとともに、広告なども出せて運営資金を得られると考えた。

③必要な情報が少ないことについて、今の中高生は本で得られる情報は動画やネットで補えてしまう。中高生が欲しい情報がある程度提供できればよい。そこで、実際の高校の先生のお薦め本を紹介する。教科ごとに置いていけば、勉強意識のある中高生であれば手取るのではないかと思う。実際に先生たちからも最近読んだ小説を生徒に紹介したいが授業中には余計な話ができないなどといった話を聞くので、図書館で機会を提供できたらよいと思う。

次の本の帯についてだが、本屋では帯がついているが図書館ではついていない。本を選ぶときに帯をよく見るので、残したり、手作りしてみても面白い。実際に小学校でそういう取り組みをしている先生もいた。

中高生への情報が少ないことについて、やはり一番の関心事は進学、進路だ。学習漫画を増やしてコーナーを作ってはどうか。今は参考になる漫画が多いので、文字だけの本でなく漫画も入れたらどうかと思う。

参考書コーナーは、中高生は自分の受験に必要な教科以外は切り捨てるなどある意味合理的だ。そのため参考書などがあったらよいと思う。中高生たちが自分たちが使った参考書を寄付できるような形でよい。書き込みがあると売れなかつたりするので、書き込みがあっても受け入れて、図書館のコーナーに

議 事 の 経 過

置く。また、勉強する席が最近減ってきているという声もあったので、勉強席に参考書コーナーがあると、放課後中高生が集まって勉強する場になると思う。また、最近の塾の自習室やカフェなどは勉強するため使うのにお金がかかる。図書館という無料の施設で放課後の居場所を作ってあげるのが大事だと思う。参考書を寄付したらスタンプがもらえて、スタンプがたまったら例えば高階図書館と併設のカフェのドリンク無料券がもらえたりすると、喜んで寄付したり利用してくれるのではないかと思う。

〈質疑応答〉

委員：具体的でわかりやすく感心した。調査もしてあるがどちらで聞いたのか。コンビニというのが斬新と思った。学校の図書室が出てこないが、そちらの利用はどうか。

委員：高校で国語の授業を担当している生徒に聞いた。学校の図書館は確かにあるが、学校により大きさが異なりすごく狭いところもある。今いる学校の図書館は本があっても狭くて勉強する場所がなく、必要な生徒だけが集まるような感じだ。図書館は公共の場として学校を越えて生徒が集まれる場として考えている。

会長：最近の県立高校は非常によい図書館があり、人気の本を投票で決めたり工夫している。そういう意味で高校との連携をどうするかを考えた方がよいかもしれない。高校にないものをおぎなう、学校にない資料を提供したりしてはどうか。こういうアイデアを高校側にも提供したりという連携の仕方もある。

委員：こういう実現していくため、実際に中学、高校の図書室などとの連携や交流はあるのか。

事務局：小中学校へは学級訪問をしたりといった関わりはある。

委員：学校と連携というと、中学は公立が多くて連携がとりやすいが、高校は公立・私立とあり、最初は公立の方が連携しやすいだろう。具体的なことを考えると、どの程度交流があるかというベースがないといきなり本を紹介してほしいと言っても難しい。コンビニはさらに敷居が高く、営利目的なので少々難しいところがある。学校図書館との連携から始める方が実現性が高いと思う。

事務局：コンビニで本を貸出返却できるようにすることについては、コンビニエンスストアのバイザーを呼んで検討した経緯があるが、請負費が高いことや資料保管期間が短いこと、資料回収における運搬費用負担増などの理由で見送っている。

デジタルサイネージは、川越市役所本庁舎1階に設置されており、図書館のイベント情報を掲載しているが図書館には導入されていない。利用者への掲示板として効果はあると思うので広告料と併せて今後検討したい。

図書館では様々な特集展示をし、図書などの紹介を行っており、利用者の目を引く新たなテーマはぜひとも行っていきたい。特定の人がおすすめるという

議 事 の 経 過

う形式はなかなか難しいと思うが、YouTube、Instagram など SNS に関する展示は新しい考え方なので、今後、検討したいと思う。

本に帯をつけることは、請求ラベルが隠れてしまうので難しいが、新たなジャンルの本を手に取りやすくする工夫として検討したい。※追記：現在日本文学・英米文学は帯を裏表紙見返しに貼付しています。(H26 第2回協議会議題)

学習漫画については、現状では学習漫画コーナーはないが、子どもが読書するきっかけとして他の児童書の配架を含めて今後検討する。

参考書や問題集は、本への書き込みを認めていないこと、1年から数年で内容が改訂されてしまうなどの理由で収集から除外している。提案を導入した場合、寄付された本の管理、書き込みはどこまで許すのか、古くなったものや破損したものの廃棄時期、書き込みされた参考書等に需要があるかなどの課題がある。寄付したお礼については、高階市民センターにある喫茶室は行政財産の使用許可を受けた障害者団体が経営しており、図書館が金券に近いものをお礼として渡すことはできない。

提案に対し難しいと回答したものもあるが、旧態依然とした対処しかしないようでは今後の図書館の発展にはつながらないので、提案を参考にして必要に応じて見直したいと考えている。

会長：デジタルで新しい情報を流すなどあるが、担当者をどう確保するか、更新していかなければならないといった問題がある。社会がそういう方向へ動いていく中で本日をきっかけに考えていければと思う。

委員：最近の中高校生は YouTube や Instagram のお勧めから入ることが多い。おすすめコーナーでネット上のインフルエンサーの薦める本を出すなどはすぐできるだろう。高校生の心を掴むようがんばってほしい。

委員：学校図書館の役割もあるので、連携の方が先のような気がする。

会長：YouTube やインターネットは、今の子どもたちはそれが普通で育っている。いろいろ取り入れてやっていくのがよいだろう。

(2) 幼児の図書館利用率アップについて (佐藤由来委員提案)

資料1 (裏面) に基づき、提案委員が説明を行った。

委員：幼いうちに図書館に多く触れていれば、大きくなっても図書館が居場所の1つになるのではないかと思う。そのために、まずはママにとって使いやすい図書館ということが必須になってくる。周囲のママたちに図書館について聞いて提案する。

まず、小さい子を連れて行きづらいという声があがった。子ども用のイスが少ない、ハイハイできるじゅうたんや畳のスペースがあるとよい。静かな場所というイメージがあり、子どもはしゃべったり泣いたりするので連れて行きづらい。泣いても声を出しても大丈夫なママの居場所となるとよい。

2つめは高校生の方と同じだが、置いてある絵本が古い、本屋に並ぶような

議 事 の 経 過

新しい絵本がない。実際には新しい絵本が入っていても借りられてしまって古い本しか並んでいないのではないかと。新着本は貸出期間を他より短くして手に触れる機会を多くしてはどうか。新しい本なら有料でもかまわないという声もあるくらいだった。

また、小さい子どもがいると図書館まで行って返却するのが大変なので、コンビニやスーパーで貸出・返却できると、貸出・返却のサイクルがスムーズになると思う。

妊娠中は時間があり手作りグッズを作ったりすることが多いので、手芸コーナーに実際につくってみました、と実物の展示があると手に取りやすい。時間のあるこの時期に図書館の良さを実感してもらえるように、電子書籍も含めて妊婦向け図書のバナーを作るとか年齢別の本をリストアップするなどしたらどうかと思う。

図書館はまじめなイメージで慣れていない人には通いづらい。子ども向けコーナーだけでもかわいらしく、保育室のような飾りつけがあると子どもが喜んで行きたくなるのではと思う。定期的に通うように、体重・身長を測るコーナーがあってもよいだろう。また、ブックスタートでは本を選ばせてほしい。自分は娘を持っているが男の子向けの本で、選べたら良かったと思った。

図書館以外でも利用カードが作れるとよいと思う。最近のママはカードを全く持ち歩かず携帯電話のみ持って移動するので、カードを持ち歩かなくてよいように、貸出アプリなどがあると利用しやすいかと思う。

市内の幼稚園・保育園とコラボしたらどうか。初めて赤ちゃんができたママは何もかもが初めてだらけなので、図書館に実際の保育園の先生の声などあれば子育てについてイメージしやすい。

絵本を探すときに絵を描いた人の名前順になっているが、以前くまさんの出る絵本を探していて見つけれなかった。絵本の配列が子どもにとってわかりづらいのではないかと思う。〇〇の出てるおはなし、など内容ごとにしてもらえると手に取りやすい。

また、絵本コーナーの隣に子育て本などママ向けの本があるとよいという声もあった。小さい子ども連れだと一般書のところまで行くのが大変なので、近くにあるとついでに借りやすい。

子どもの成長とともに思い出せる貸出通帳など記録が残るとよい。記録するだけでなく、この本を読んだら次はこの本を、というようなすごろく形式もよいと思う。紙だと図書館まで来た人だけになるので、電子書籍のページやアプリなどデジタル形式にしてもいいだろう。

キャラクターを使うと子どもが意外と食いつく。実際に子どもを連れてよく行く狭山市立図書館によむぞうというキャラクターがいるが、子どもがぞうさんのいるところに行こうとか言ってくる。とっつきやすい図書館のメインキャラクターがあると身近に感じられてよいと思う。

議 事 の 経 過

資料にはないが、ふじみ野市の大井図書館は文化施設とつながっており文化施設の廊下にも本があって、他の用事で行ったときについでに本を手にとれるそう。これは難しいかもしれないが、図書館という場所を大切にすると同時に、図書館内だけでなく街全体に図書館の本が広がっていくと川越市は図書館が近くにある町となって素敵だなと思った。

〈質疑応答〉

委員：絵本を借りるときに新着本が人気というが、子どもは生まれてきて全てが新しい本だ。なぜ新着が人気なのだろうか。

委員：図書館の本で育った人は古い本でもよいが、そうでない人の方が多い。図書館に行かない人は新しいものの方が興味がある。本屋で目につくからではあるだろうが、新しいものを手に取りたいと思うようだ。

委員：ママ友の中で最近出た話題の本などといった話題が出たりするのだろうが、図書館のような本を大切にする場では、絵本も新しい古いなどは気にせず子どもが絵本と接するのはよいことだという啓発をしないといけない。新着が出たから買う代わりに図書館で借りるということになってしまう。子どもが最初に接する本には新旧で大きな差はおそらくないので、どちらもよいという意識になるような講習などしたらよいと思う。最初から子どもが図書館に行きたいというのはなく、必ずお母さんが子どもを図書館に連れてくる。新着があるというよりは絵本がたくさんあって全部無料で見られる、だから子どもを連れて行こうとなるのがよいと思う。配列を中身でするというのはとても良いアイデアだ。分類番号で並べるのは昔の目録のカードしかなかったときは大事だったが、今は検索できる。車のコーナーにある、くまさんコーナーの3番目にあるといったデータがあれば作者名から探したい人も探せる。ぜひ検討してほしい。

委員：ふじみ野市の新しいセンターは見に行っただがいろいろな施設があった。川越市では公民館などの施設を利用するのもよいかと思った。

委員：川越は図書館が少ないという声もあり、大東地区にも図書館が欲しいといった話が出ていた。実際に大東市民センターには図書館の本ではないが、図書コーナーがあり本が読め、貸し出しもできるようだ。公共施設で待っている間に図書館の本が手に取れるとありがたいと思う。

事務局：図書館では乳幼児と保護者の居場所となるよう、児童室及び児童本コーナーはじゅうたんなどを敷いて居心地を考慮している。椅子が少ないことなどは真摯に対応したい。

新着本の貸出期間を短くすることについては、本が早く回ってくる半面、実際本を読める期間が短くなること、一定の期間だけ本に新着であると表示をする必要があるなど課題があり、図書館システム上の改修も困難である。

手芸本の近くに実際の手芸作品を展示するなど、書架のテーマと連動した展

議 事 の 経 過

示を行うことはとても良い提案であると思う。しかし、作品をどのように収集するか、募集し利用者から預かるとなると紛失・盗難対策や、展示スペース確保、書架の整備の検討が必要となる。

スーパー、コンビニエンスストアでの貸出、返却については、先ほどコンビニエンスストアを見送ったと説明をしたように、スーパーについても、いずれにせよ予算が必要であり、図書館システム改修費用なども必要となる。図書館が遠い方など来館が困難な方に対するサービス方法などについては検討していきたい。

本市図書館の電子書籍サービスのホームページについては、児童向けバナー「こどものほん」や、「歴史」「芸術」などジャンル別検索コーナーを設定するなど、今までも利用しやすいようコンテンツの見直しをしていた。提案の「年齢別」、「妊婦」などの新しい切り口について、今後検討したい。

幼児向け絵本コーナーについて、これまでも目を引くイラストやポップを装飾するなど、イメージアップに心がけており、これからも子どもの目線を意識して児童室を運営していく。

図書館には身体測定コーナーはないが、川越市保健センターでのイベント「おおきくなったかな？」で身体測定や足型取りなどを行っている。図書館としては、このイベント時に読み聞かせ用の絵本を紹介するなど、子育てを支援している。

図書館以外の場所で図書館利用カード作成は行っていないが、既に図書館利用カードを取得している方の電子書籍登録は、電子申請でも受付している。次回の図書館システム更新時に、オンライン登録機能などの新しい機能追加について検討していきたい。

川越市内の幼稚園・保育園とのコラボにつきましては、幼稚園・保育園向けに図書館のおはなし会について宣伝している。選定方法など課題はあるが、特集展示における選択肢の一つとして検討したい。

絵本の配列については、現在も、幼児向け絵本については、昔話、乗り物、赤ちゃん絵本などに分けて配架している。今後も効果的な配架に努めたい。

子どもにとって自分が読んだ本の記録は読書をする励みになると思う。読書記録を自分で記入する読書通帳やスタンプラリー方式にするなど、手法について検討したい。

キャラクターについては、以前図書館に在籍していた司書が作った「ぶっくん」というキャラクターがあり、現在の利用者カードに使われている。ただし、図書館のキャラクターとして使い始めた経緯が不明なこともあり、今後明確にした上で、児童向けの刊行物に掲載するなど、活用について検討していきたい。

貸出カードのアプリ化や本のお気に入り登録につきましては、図書館システムの次期更新の新機能追加の中で検討していく。

子どもの作品の飾り付けについては、図書館のイベントで子どもたちが合同

議 事 の 経 過

で作ったこいのぼり、夏休み絵日記などの作品を児童室に設置するなどで雰囲気づくりに努めてきた。今後も、子どもの作品を積極的に展示し、児童室の雰囲気づくりや児童事業のPRに努めたい。

市民センターについては、新設時には毎回必ず図書館を入れるという話が出てくるが、大東地区には配置されていないのが現状だ。今後も図書館の新設があった場合は複合施設として検討されると思う。

会長：良い提案だった。もっと生の本にも触れてほしいと思っている。今の子育て本などはほとんど写真で文字がほとんどない。お母さんたちの読書不足をどうするかが課題だと思う。

(3) 図書館利用の促進について(佐藤葉子委員提案)

資料2(表面)に基づき、提案委員が説明を行った。

委員：「川越市立図書館運営方針」に基づいて課題を考えた。利用促進はどこの図書館も課題としていることだと思う。2の現状は運営方針に記載されているが、個人貸出数の減少傾向、若年層の利用が少ない。課題解決支援を強化していく必要がある。利用者アンケートで新しい図書館への期待がある。また市のホームページや広報紙について、アクセス促進が提示されている。また図書館ホームページにはウェブアクセシビリティに配慮したページ作りを目標としていると記載があった。

課題として、ア 市の広報紙に図書館ホームページに二次元コード(QRコード)を添付する。二次元コードがあるとすぐ詳しい情報にアクセスできる。既に二次元コードが添付されている記事もあったが、図書館の部分についてもそうしたほうがよい。

イ 図書館ホームページの充実。図書館だよりも掲載したり、展示情報を掲載するなどホームページのブラッシュアップが必要と考える。

ウ 課題解決・読書支援の活用も必要だと思う。

エ 電子書籍サービスのさらなる向上が必要とも課題にされていた。

オ 非来館者に向けたサービス。デジタルに不慣れな人、来館困難な人、在日外国人、病院へのサービスが必要と考える。高齢者施設への支援は実施していると聞いている。

その解決方法として、ア 図書館ホームページの情報発信として、図書館だよりや展示情報の掲載、メールマガジンを発信などが考えられる。

イ 図書館利用促進・啓発として、集会等の機会や長期休み前などに利用カード発券や利用案内をしてはどうか。また、講座・講演会の開催。今は郷土資料解題講座を開催しているが、他に川越市ゆかりの作家JAMSTEC(海洋研究開発機構)やJAXA(宇宙航空研究開発機構)のホームページに講演講師の案内があるのでこういったところにも交渉してみてもどうか。いろいろな講座がもっと活発に開催され市民の文化交流の場として図書館を利用しても

議 事 の 経 過

らう。

ウ レファレンスサービスでは、国立国会図書館のレファレンス協同データベースにかなり多くの図書館からの事例が上がっているが、川越市もパスファインダーが作られている。川越市は素材そのものが歴史や観光など豊富なので、もっと市民が活用して郷土資料にアクセスし課題解決になるようホームページにリンクなどがあるとよい。

エ 電子書籍サービスは、パソコンとスマートフォンでは見方が違い、かなり深く入っていかないと見たい情報が見られない。電子書籍やオンラインデータベースなど利用者にわかってもらうため使い方の講座があるとよい。電子書籍なら入院などしても読めるので、おすすめパンフレットをそういう方に配ってはどうか。

オ 行政各部所との連携は、行政のレファレンスサービスを行って図書館を使ってもらう。最新の資料があるわけだから、市職員にも図書館利用促進が必要だと思う。

結論として、市民の情報拠点となる図書館ということで、子育て支援や障害者支援など地域の課題解決に市民・自治体と連携して取り組んで地域の活性化に貢献し、生活の中でルーティンになるような拠点、スーパーに行ったら図書館に行ったらというようなルーティンの中に組み込まれるようなプラットフォームであってほしいと思う。

考察としては、各部署と連携したり、個人情報保護、実施する人員と予算の確保が必要とされると思う。その中でできることから始めていくことが大切だと思うので提案する。

〈質疑応答〉

委員：大変広い話となったが、気になったのは目指す姿の部分で、障害者支援には今年4月1日に障害者差別解消法が施行され川越市立図書館でも読書バリアフリーを熱心に行っていると思う。西図書館が障害者支援の基点の図書館としているのか。読書バリアフリーは全国で力を入れ始めており、芥川賞を受賞した市川沙央さんの「ハンチバック」という小説で読書バリアフリーについて提言もあった。読書バリアフリーについて何か検討しているか。

事務局：もともと西図書館の館長が障害者サービスに力を入れていたこともあって進んでいて、実は川越市は県内でもかなりやっているほうである。対面朗読のほか、音訳データも従来から毎年作成して資料は増えている。

会長：将来的に目指す姿にあったようにいろいろな出会いの場としてほしい。日本も労働者不足で海外から人を入れないとやっていけない。図書館は本を貸し出すとともに情報提供の場の役割も担っていくことになるだろう。前に外国人に日本語教室をやっていたが、最初は子どもが来たが、日曜になったらおばあちゃんなど家族10人くらい総出でやって来た。情報を得たい、何か本を読み

議 事 の 経 過

たいといった人が大勢いる。そういうところに、どうやったら将来的にいわゆるアメリカのような外国人の一つの町になってしまうことが起きないようにできるか、対策として図書館の役割も重要になってくると思う。図書館に来ない人たちに対するサービスというのは積極的に関わっていかないと、市の方も大変になるだろう。

(4) 不登校やひきこもりに悩む当事者や家族を支援していくために、図書館としてできること (佐藤葉子委員提案)

資料2 (裏面) に基づき、提案委員が説明を行った。

委員：昨今の記事や文部科学省のデータなどから現状を考察した。小中学校の不登校児童は全国で29万人と最多を更新しており、原因として無気力・不安・生活リズムの乱れ、友人関係の問題などがあるが、状況はさまざまということだ。知り合いにも不登校の子どもを持つ人がおり、何かできないかと思っている。さらに、支援につながっていない人も11万5千人もいるという。また、家族の不安を解消するために情報収集支援が必要だと思う。

既に川越市では不登校児生徒支援プランを実施しているようで、教育センターが対応しているほか、以前図書館でも何ができるかを検討し、図書館に不登校児童が来館した場合には暖かく見守る対応をしているようだ。日々何ができるか考えていった方がよいと思う。

課題としては、教育機会の確保や自立を目指すことに必要性を当事者、家族など全ての関係者に理解してもらうことが必要となる。子どものストレスを緩和しレジリエンス力(回復力、精神的立ち直り)を付けるための支援や、保護者の不安や情報不足があるので、子どもの様子が不安になったとき最初のアプローチとして図書館ですぐ情報が手に入るとよい。

方法として、ア 電子書籍の活用案内、図書リストの配布、ホームページでの掲載。家でも読める電子書籍をもっと案内したり、図書館まで来れない子のために郵送で貸して返すときは図書館に来てね、というシステムがあるとよいと思った。教科書以外の本により知識や情報の獲得を当事者、関係者に促すことを図書館としてできないかと思う。

イ「図書館において」例えば駅前に集合して図書館まで行って、利用方法をレクチャーする。図書館は公共施設としては一番敷居が低い方であるが、社会人席は座っていいのかとか図書館ごとのルールがあり、利用案内を見ても細かくてわかりにくい。普段行かない子は使い方がわからないので、フレンドリーに図書館と一緒に行って使い方を気軽に教えてあげてはどうか。

ウ 保護者・家族向けの情報提供として引きこもりをテーマとした講座などを開いて意見交換をしたり支援機関につなげる場とする。

エ 心理的安全性は最近ビジネスの場でもよく使われているが、会議などで発言して叱られるかもしれないと思うとよい意見が出てこないという。講座の

議 事 の 経 過

中でもこんなことを言ったらおかしいかな、というのをフリーにして子供たちの場を作っていく。家族などを受け入れる態勢があればよいと思う。

結論として、市民の情報拠点となる図書館としては、不登校・ひきこもりの現状を受け止めて働きかけを行う。他者に知られたくない潜在的な利用者に図書館情報から支援につなげることができるよう、図書館として課題解決につなげていければよいと思う。

他課や専門機関などとの連携は、連携方法や個人情報保護や人員・予算などもあり、図書館はやろうと思えばなんでもサービスができる。どこまで合理的にサービスをできるかはそのときにできることから始めるしかないと思うが、できるだけやる姿勢で計画を実施していく方向や、システムリプレイスのときにそういうことを組み込んでいくのが大切だと思い提案した。

〈質疑応答〉

委員：大変重要なテーマだ。今日は不登校をよく知っている学校の先生方がいらっしやらないが、不登校はいろんなタイプの方がいるそうだが図書館にも居場所を作ろうということだと解釈した。地域全体として対応する、その中の一つとして図書館だと思うが、どういうタイプの方であれば図書館を居場所にできるだろうか。

会長：本当に重要なことで、そこで図書館がどういう役割を果たせるのかが大きな課題だ。ひきこもりは多様性があり個人ごとの理由をどう扱っていくか。図書館単独で対応するのは危険で、臨床心理士と連携するとか、これを実施するための対策委員会を作るなどしないと難しいと感じる。

事務局：不登校やひきこもりは、お話しのとおり全国的な社会問題でかんがえていけないとは思っている。本市では不登校に関しては教育センターが担当しており、そちらの意見もきいており、それを踏まえてお話ししたい。不登校の要因は理由が非常に多様で複雑であり、一人ひとり異なるため、不登校の児童生徒の情報と同じ市の組織であっても共有することができない。そのため「4方法」の「イ 図書館において」や、「ウ 保護者・家族への情報提供や専門機関へつなぐ場の提供」については、図書館側からのアプローチは難しい。

しかし、以前の図書館協議会の会議でも話したとおり、平日の学校に行っているような時間に子どもが図書館にいても、追い出したり理由を尋ねたりはせずに暖かく見守るという対応をしている。居場所の提供とまで言えないが、そのような子どもたちが図書館を居場所として認識してくれるのならば受け入れていきたい。

電子書籍をもっと活用するキャンペーンをしたり、不登校やひきこもりに関する家族の参考となる資料の特別展示や図書リストの作成は可能と思う。また、今後、教育センターから協力依頼があれば、可能な限り対応したい。

会長：図書館が居場所として認識されれば喜ばしいことだ。個人情報保護があり

議 事 の 経 過

連携が難しい。大学でもそういう担当部署以外では目に触れないのでどうなっているかよくわからない状態だ。

委員：不登校とひきこもりは中高生だけでなく、教育を終える年代でも引きこもっている人が今問題になっている。また高齢者のひきこもりもある。そういう人にも図書館が何をできるか、難しいが1つの居場所になってほしいと思う。

会長：図書館が居場所の1つになることはできると思う。このような話は継続して考えていきたい。

(5) その他

特になし。

4 閉会（盛田副会長）